

社会教育指導員の部屋

2020.9.3

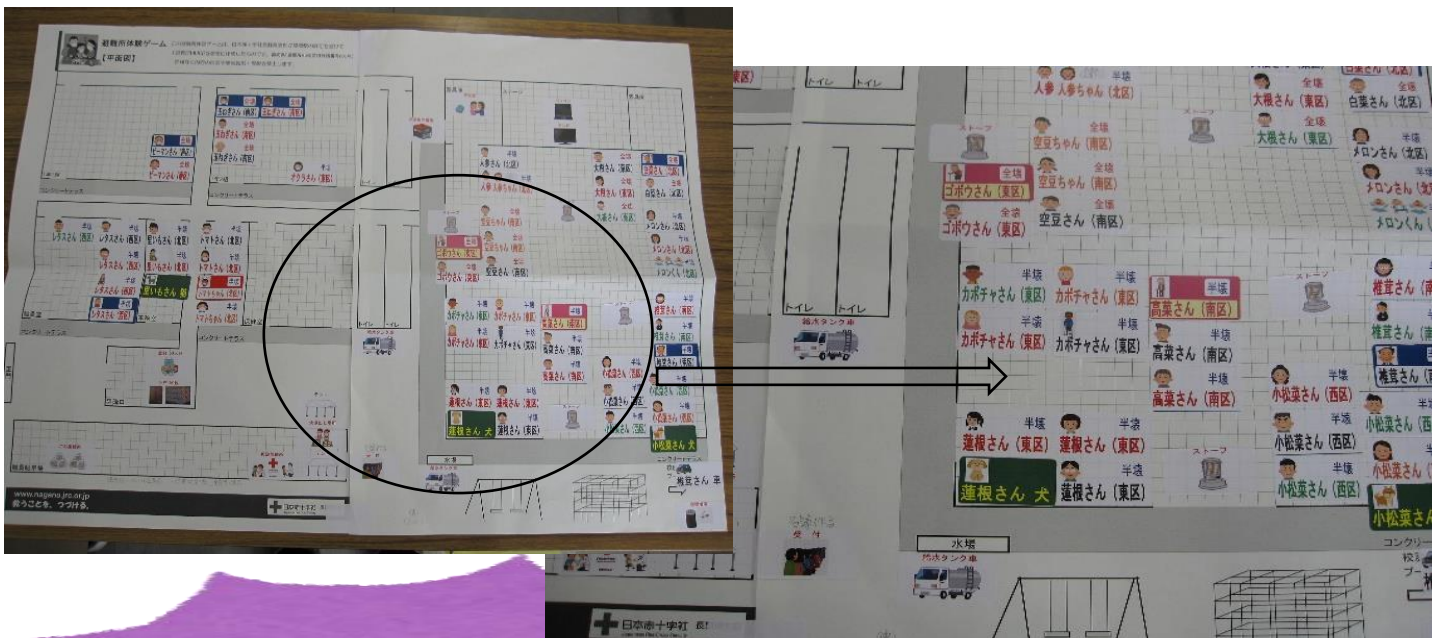
生涯学習課 社会教育指導員 伴野 洋子

臼田公民館講座「防災教室 ～避難所はどんなところ？～」に参加しました

講師より、昨年の台風19号災害の様子を織り交ぜながら、避難する所は避難所と決められた所だけでなく「安全な場所へ逃げるのが一番」、日頃から散歩時など逃げ道や安全な場所の確認をしておくことが大事という話を聞きました。

また、家庭内での対策として、危険な場所の確認を家族みんなでする。これは目線を変えることで、一人では気づかない危険も気づくことができるとのこと、なるほどと感じました。

続いて、本日のメインである体験型プログラムの避難所体験ゲーム（ひなた）を行いました。避難所となった小学校の平面図に、次々と出される避難所状況に応じて避難者シール等を貼っていくというゲームです。（写真）



今想定する災害条件

- ・ 3月某日 午後1時（地震発生）・長野県〇〇市 震度6弱
- ・ 震源まで50キロメートル ・ 震源の深さ15キロ
- ・ 電気（×）、ガス（×）、水道（×）、電話（△）（時々通じる）

本来は数人のグループで行うものですが、コロナウィルス感染予防対策として個々での体験となりました。次々と避難所にやってくる人たちを、家族構成や身体状況で場所を割り振っていきます。最初はゆっくり考えながら割り振ることが出来ましたが、だんだん割り振れる面積が少なくなってくると、自分に余裕がなくなり割り振りに時間がかかってしまい、結果避難者を待たせてしまうことになり、避難所運営側の難しさを痛感しました。

講師の話から、避難場所（地域の公会場や寺の本堂など行政指定場所以外も考えてる）・非常持出品の準備と点検見直し・家の危険箇所確認など、いざいう時慌てないよう準備しておこうと改めて思いました。